

2022年3月期 第2四半期 決算説明会

2021年11月10日
八千代工業株式会社

■ 決算説明

■ 事業の方向性

■ 決算説明

■ 事業の方向性

- 2022年3月期 第2四半期 連結決算
- 2022年3月期 連結業績見通し

- 2022年3月期 第2四半期 連結決算
- 2022年3月期 連結業績見通し

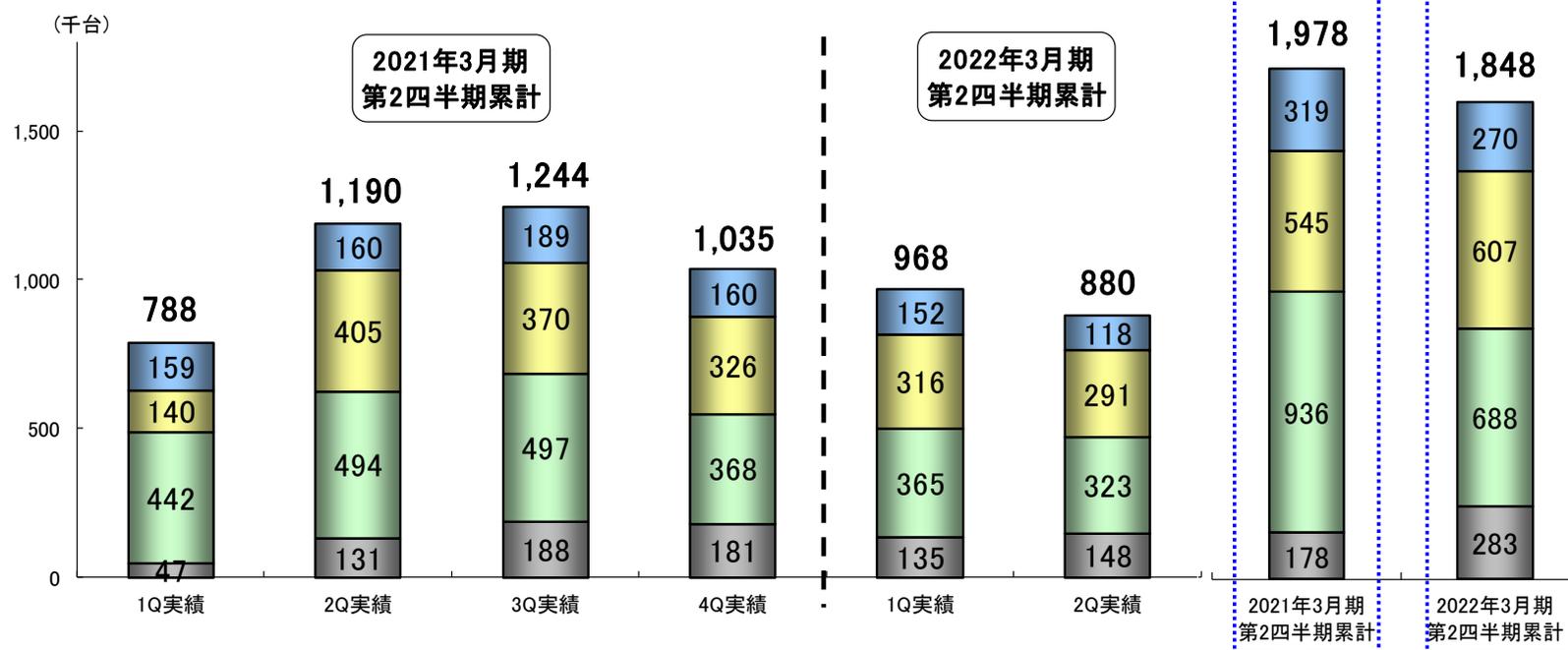
	2021年3月期 第2四半期累計	2022年3月期 第2四半期累計	前年同期比 (増減率)
売上収益	699億円	746億円	+46億円 (+6.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	13.6億円 (2.0%)	39.3億円 (5.3%)	+25.7億円 (+188.0%)
税引前四半期利益 (対売上収益比率)	12.7億円 (1.8%)	39.7億円 (5.3%)	+27.0億円 (+213.0%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (対売上収益比率)	-5.7億円 (-0.8%)	16.4億円 (2.2%)	+22.1億円 (-%)
為替レート (USDドル)	107円	110円	3円 円安

2022年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 燃料タンク概況

	2021年3月期 第2四半期累計	2022年3月期 第2四半期累計	前年同期比 (増減率)
出荷台数合計	1,978千台	1,848千台	-130千台 (-6.6%)
日本	319千台	270千台	-49千台 (-15.4%)
米州	545千台	607千台	+62千台 (+11.4%)
中国	936千台	688千台	-248千台 (-26.5%)
アジア	178千台	283千台	+105千台 (+58.5%)
売上収益	205億円	196億円	-9億円 (-4.4%)
内、為替影響	-	+13億円	-22億円 (-10.7%)

← 実質的な売上減

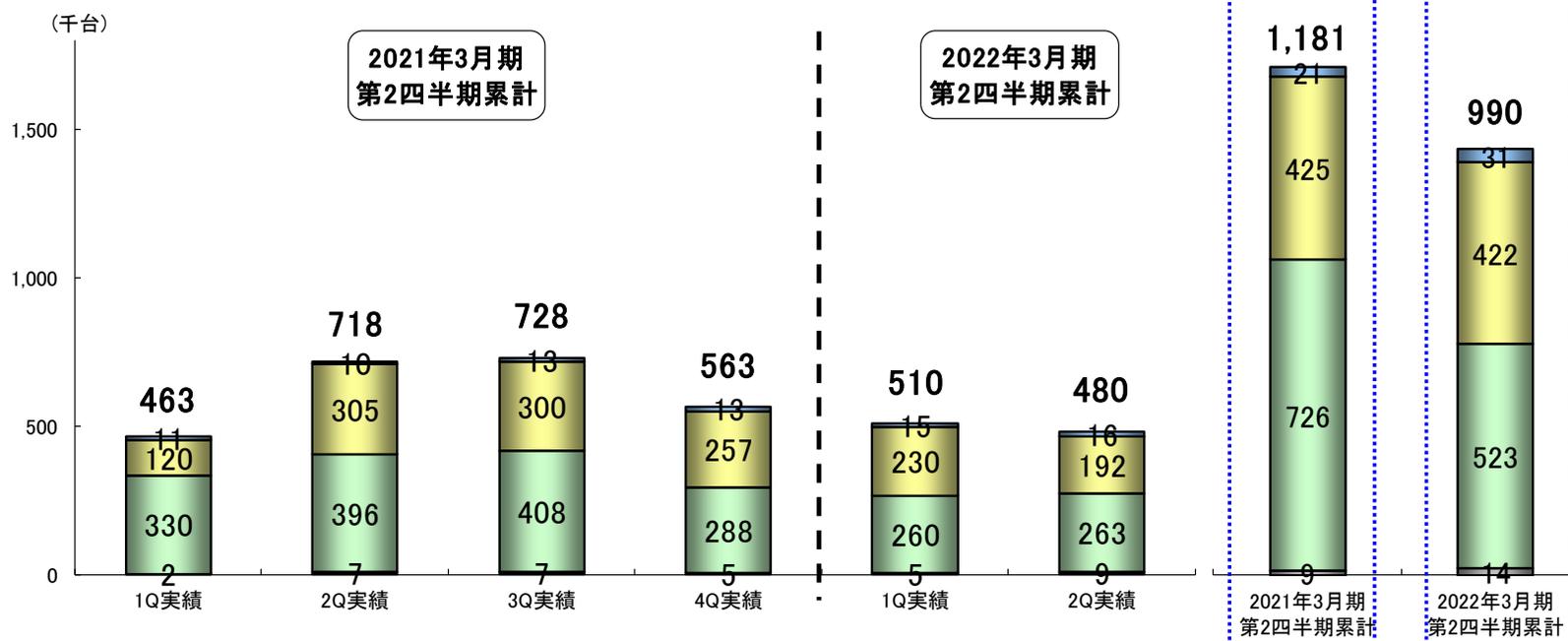
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



2022年3月期 第2四半期(6ヶ月間) サンプル概況

	2021年3月期 第2四半期累計	2022年3月期 第2四半期累計	前年同期比 (増減率)
出荷台数合計	1,181千台	990千台	-191千台 (-16.2%)
日本	21千台	31千台	+10千台 (+41.0%)
米州	425千台	422千台	-3千台 (-0.8%)
中国	726千台	523千台	-203千台 (-27.9%)
アジア	9千台	14千台	+5千台 (+71.7%)
売上収益	239億円	209億円	-30億円 (-12.6%)
内、為替影響	-	+16億円	-46億円 (-19.2%) ← 実質的な売上減

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア

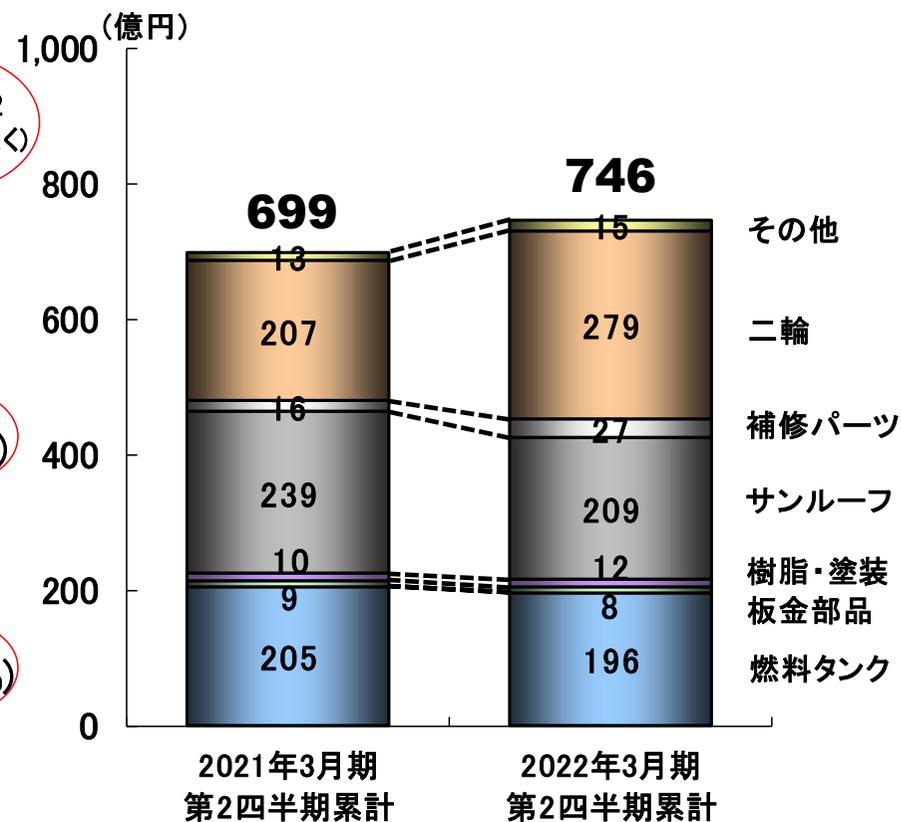
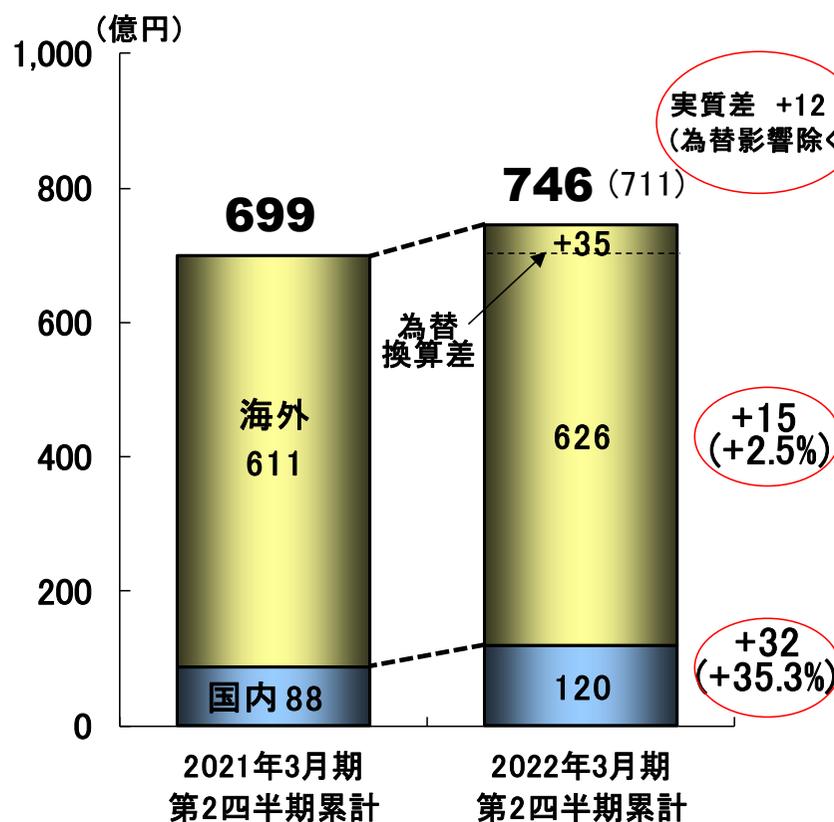


2022年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 製品別売上概況

	2021年3月期 第2四半期累計	2022年3月期 第2四半期累計	前年同期比 (増減率)
売上収益	699億円	746億円	+46億円 (+6.6%)

国内／海外区分

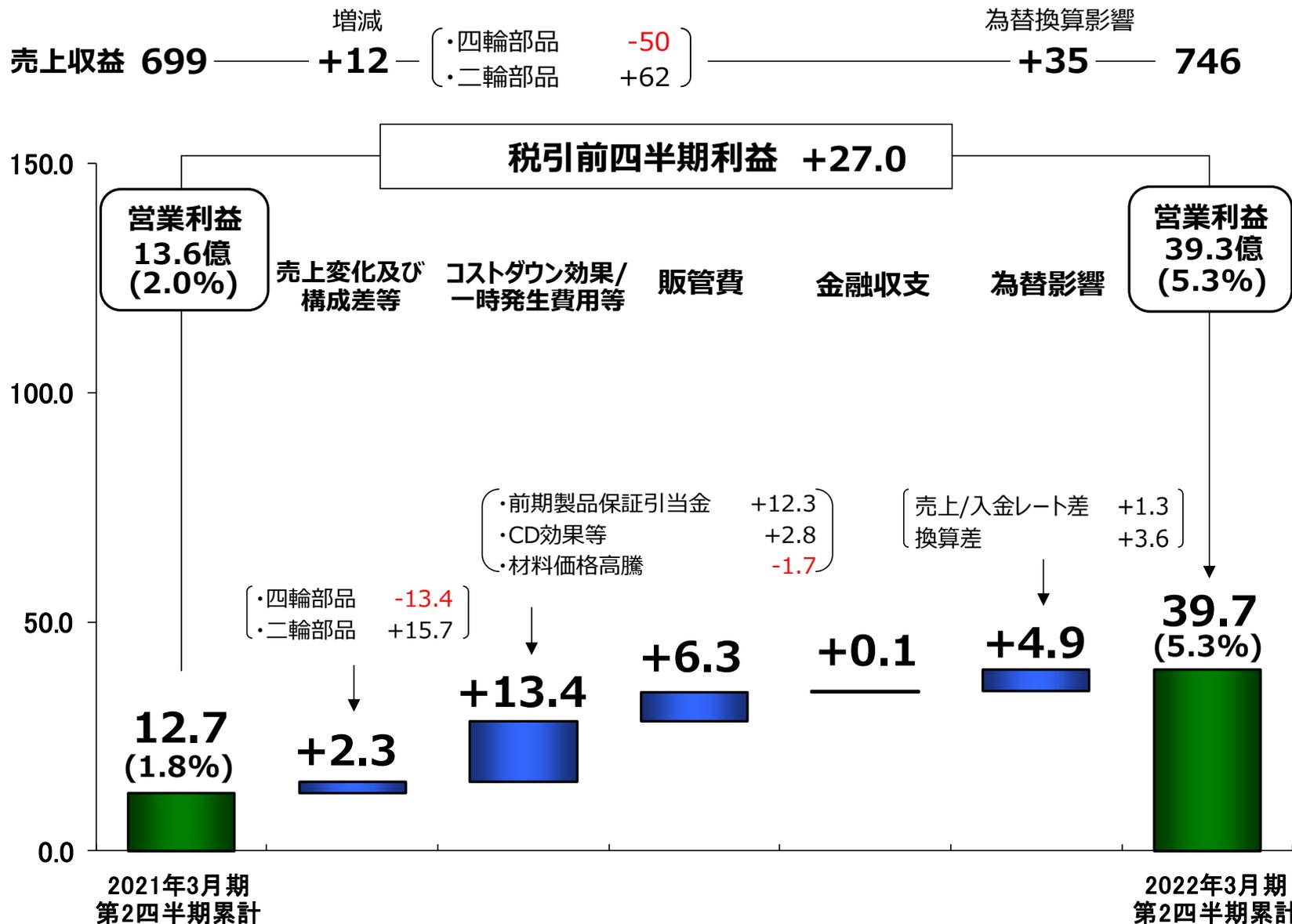
製品別区分



2022年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 連結税引前利益増減要因

P.10

(単位：億円)



2022年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 所在地別セグメント情報



(単位：億円)

【日本】

売上収益	+31
・四輪部品売上増	+10
・二輪部品売上増	+21
税引前四半期利益	+26.0
・売上変化及び機種構成差	+16.4
・CD効果等	+0.2
・販管費減	+8.8
・金融収支	+0.1
・為替影響	+0.5

【米州】

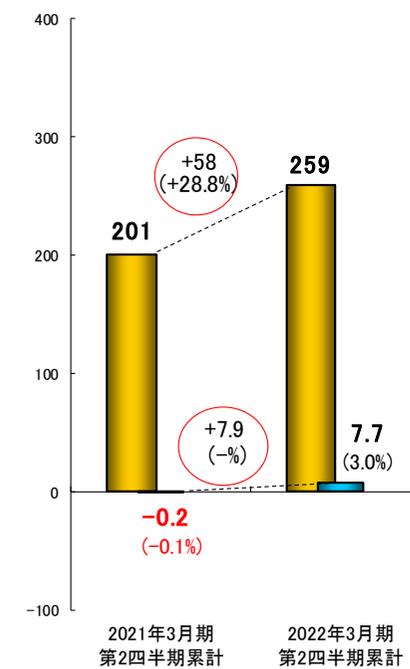
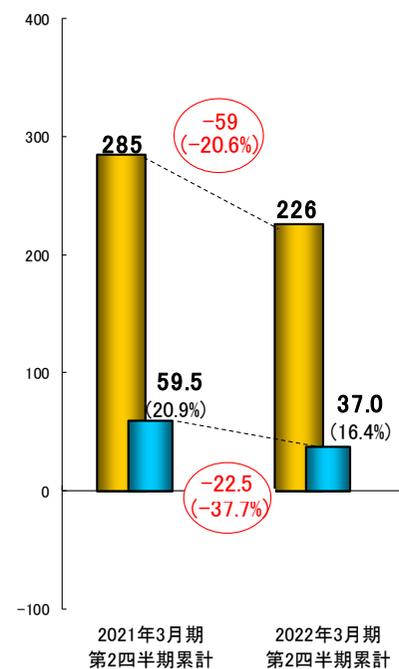
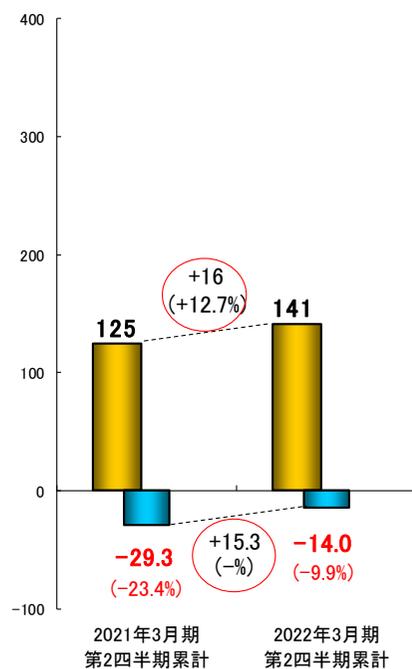
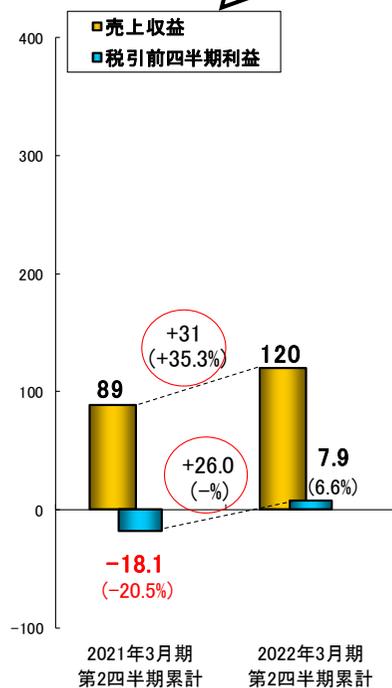
売上収益	+16
・四輪部品売上増	+12
・為替影響	+4
税引前四半期利益	+15.3
・売上変化及び機種構成差	+4.7
・CD効果等	+1.8
・材料価格高騰	-1.7
・前期製品保証引当金	+12.3
・販管費増	-2.2
・金融収支	+0.1
・為替影響	+0.3

【中国】

売上収益	-59
・四輪部品売上減	-83
・為替影響	+24
税引前四半期利益	-22.5
・売上変化及び機種構成差	-26.8
・CD効果等	+0.7
・販管費増	-0.4
・為替影響	+4.0

【アジア】

売上収益	+58
・四輪部品売上増	+10
・二輪部品売上増	+41
・為替影響	+7
税引前四半期利益	+7.9
・売上変化及び機種構成差	+8.0
・CD効果等	+0.1
・販管費増	-0.2
・金融収支	-0.1
・為替影響	+0.1

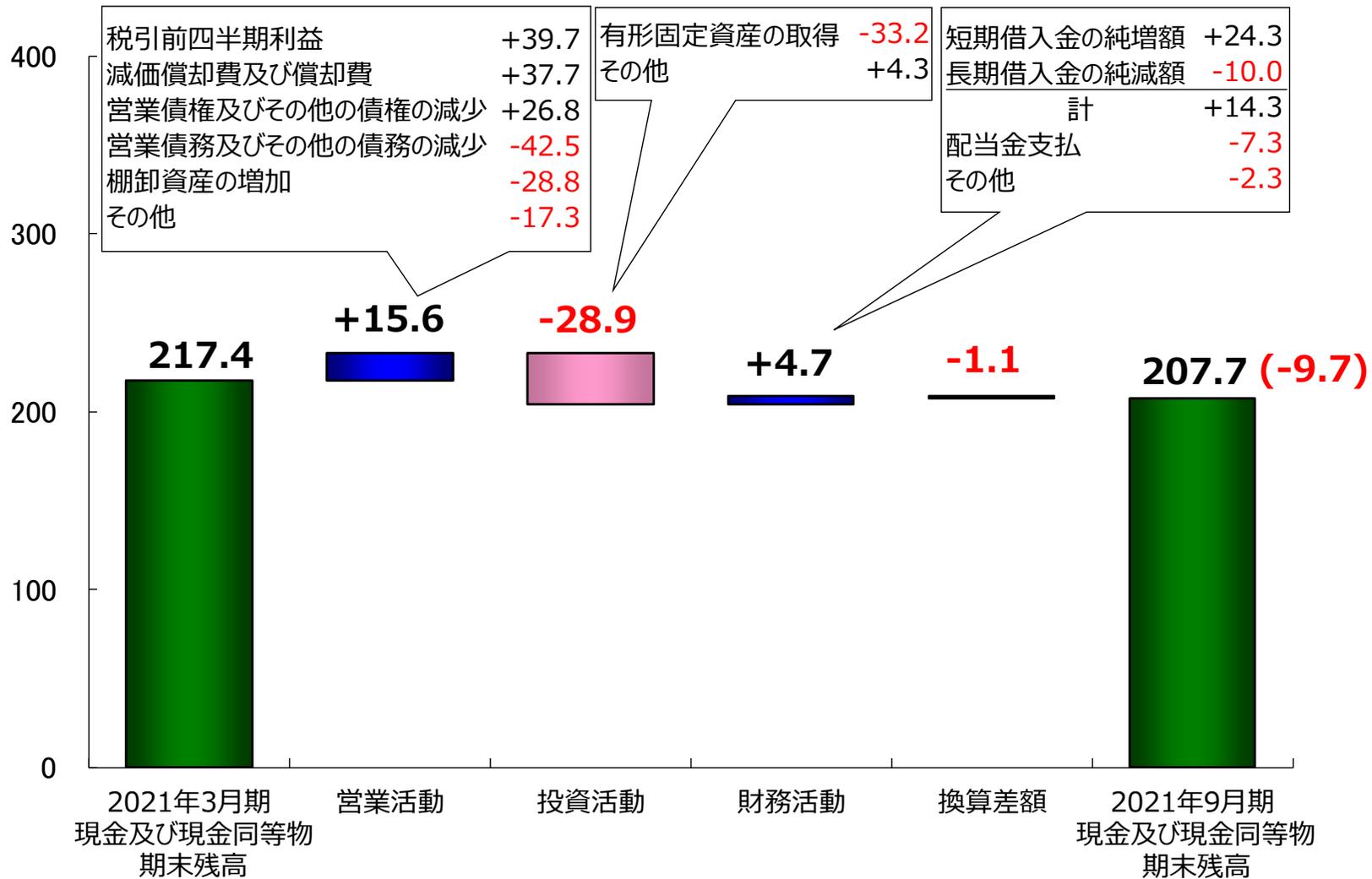


2022年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 連結キャッシュ・フロー



P.12

(単位：億円)



2022年3月期 第2四半期 連結財政状態計算書

	2021年3月期	2021年9月期	増減	コメント
資産合計	1,264億円	1,233億円	-32億円	営業債権及びその他の債権 -24億円 その他の金融資産 -23億円 棚卸資産 +29億円
負債合計	614億円	576億円	-39億円	営業債務及びその他の債務 -48億円 借入金 +14億円
親会社持分	527億円	537億円	+10億円	包括利益 +12億円 配当金支払 -2億円
非支配持分	124億円	121億円	-3億円	包括利益 +3億円 配当金支払 -5億円
資本合計	650億円	657億円	+7億円	—————
負債及び資本合計	1,264億円	1,233億円	-32億円	—————
有利子負債残高	162億円	176億円	+13億円	—————
親会社所有者帰属持分比率	41.6%	43.5%	+1.9%	—————
有利子負債依存度	12.8%	14.2%	+1.4%	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	2,200円	2,241円	+41円	—————

- 2022年3月期 第2四半期 連結決算
- 2022年3月期 連結業績見通し

2022年3月期 連結業績見通し

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画)	前期比 (増減率)
売上収益	1,572億円	1,500億円	-72億円 (-4.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	56.3億円 (3.6%)	65.0億円 (4.3%)	+8.7億円 (+15.5%)
税引前当期利益 (対売上収益比率)	61.1億円 (3.9%)	64.0億円 (4.3%)	+2.9億円 (+4.7%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	6.7億円 (0.4%)	14.0億円 (0.9%)	+7.3億円 (+110.3%)
為替レート (USDドル)	106円	上期実績 110円 下期計画 105円	上期4円 円安 下期1円 円高

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年5月13日の決算発表時に公表いたしました業績予想を変更しておりません。なお、予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因の変化によって大きく異なる結果となる可能性があります。今後修正の必要性が生じた場合は、適時かつ適切に開示してまいります。

【配当に関する基本方針】

長期的な視野に立ち、今後の資金需要や連結業績を考慮しながら実施し、内部留保金については、将来の事業展開に充て更なる業績の向上を図ると共に財務体質の強化に努める。

	2021年 3月期	2022年3月期 (予定)		前年度比 (増減)
		期初	今回	
中間配当金	0円	(6円)	6円	+6円
期末配当金	8円	(6円)	(6円)	-2円
年間配当金	8円	(12円)	(12円)	+4円
連結配当性向	28.6%	20.5%	20.5%	-8.1%

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のようなものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

■ 決算説明

経理部長

栗原 義弘

■ 事業の方向性

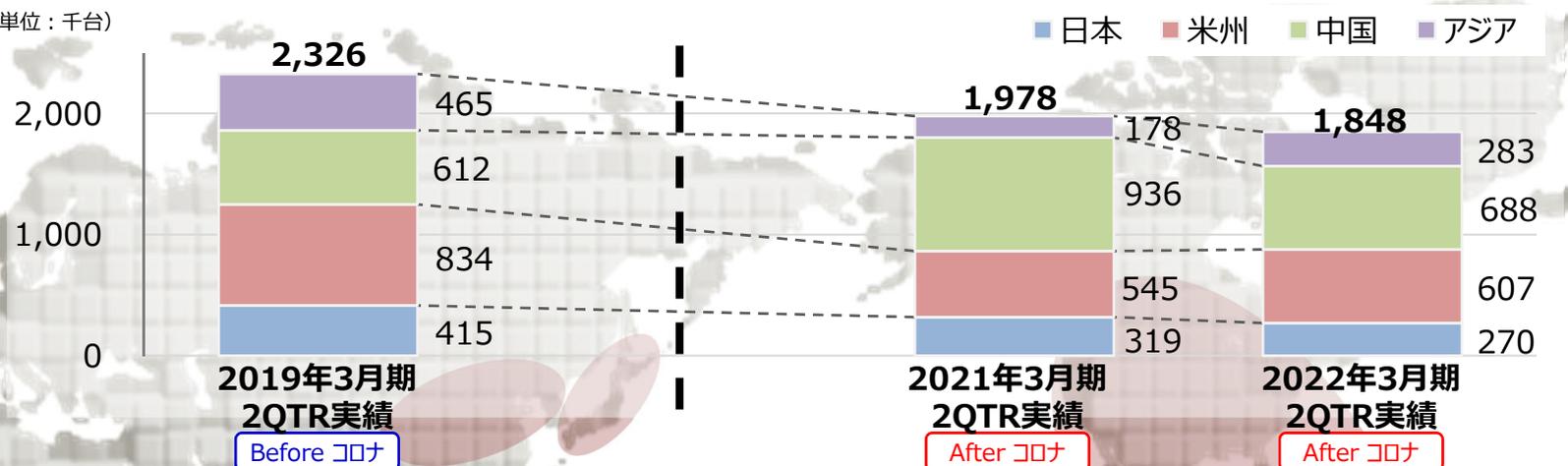
代表取締役社長

加藤 憲嗣

上半期 生産台数実績 (トレンド)

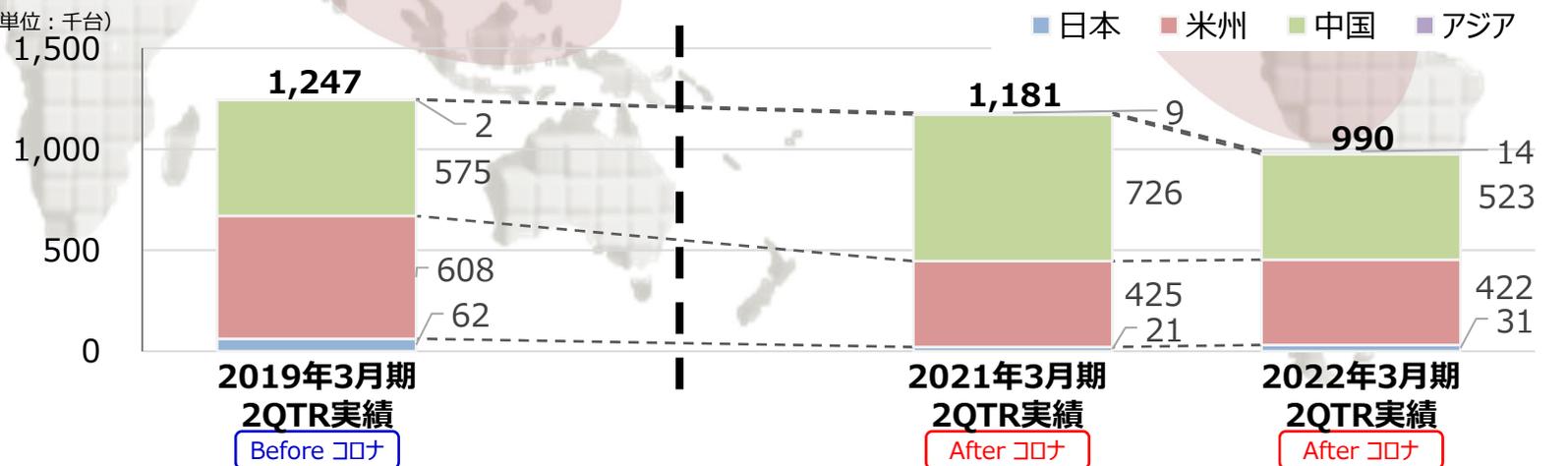
燃料タンク

(単位: 千台)



サンルーフ

(単位: 千台)



コロナウイルス影響は縮小したが、半導体影響により中国地区の受注が減少

第14次中期の位置づけ

Vision 2030

たゆ
ものづくりの弛まぬ進化で
モビリティのキーカンパニーになる

第14次中期 (20-22中期)

さらなる成長の基盤づくり

基盤の確保 健全化 風土改革

重点施策

- ・競争力強化・ものづくり進化
- ・事業基盤の盤石化
- ・グローバルQD体質の強化
- ・人と組織の活性化・人材強化
- ・企業価値向上に向けたサステナビリティ展開

第15次中期 (23-25中期)

事業体質の盤石化

新たな技術・製品、風土改革が完了

第16次中期 (26-28中期)

飛躍に向けたチャレンジ

変革した要素で独創性を発揮し、新たな創造へ進む



第14次中期の位置づけ

Vision 2030

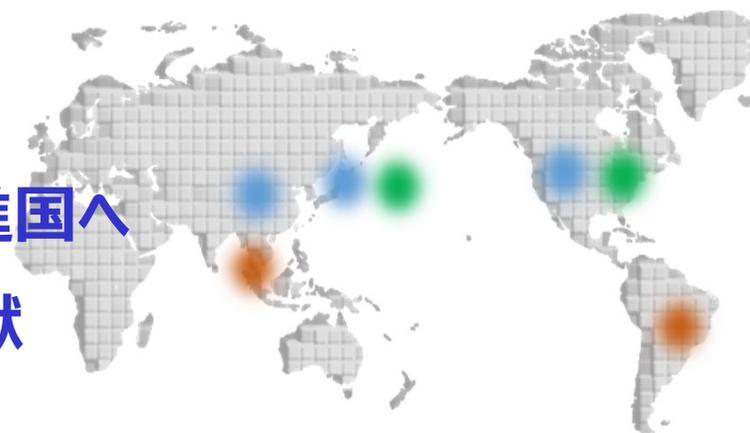
たゆ
ものづくりの弛まぬ進化で
モビリティのキーカンパニーになる

第14次中期 (20-22中期)

さらなる成長の基盤づくり
基盤の確保 健全化 風土改革

■第14次中期				■第15次中期
重点施策	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
競争力強化・ものづくり進化	生産体質改革 ・ハード施策：グローバル高位平準化 ・ソフト施策：徹底した原価改善 ・日本、米州事業の健全化加速			
事業基盤の盤石化				
グローバルQD体質の強化	品質体質強化 ：開発領域・量産領域、体質領域			事業体質の盤石化
人と組織の活性化・人材強化	企業風土改革 ・『一致団結』への変革 ・『自ら挑戦し、進化する集団』への変革			
企業価値向上に向けたサステナビリティ展開				

- 低コスト スタANDARD仕様を新興国へ
- 電動化対応高圧密閉仕様を環境先進国へ
- エネルギーストレージで水素社会へ貢献



● Petrol

低コストタンク



● Hybrid

高圧密閉タンク



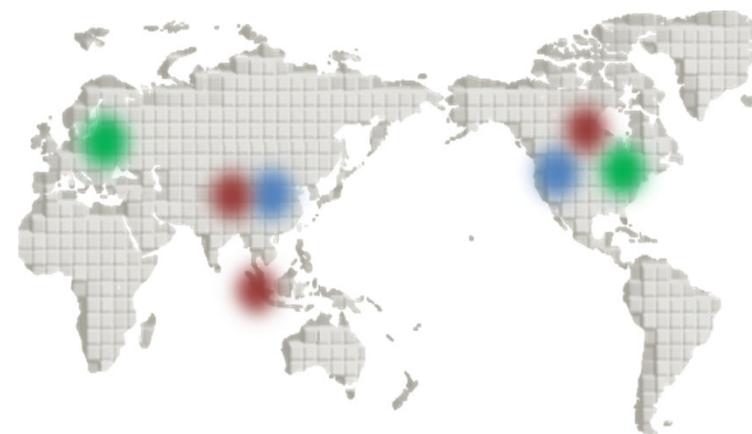
● ZEV

Zero Emission Vehicle

水素タンク



- 低コストスタンダード仕様を新興国へ
- パノラマ仕様の拡大
- ハイエンド向けフラッグシップモデル
- 超軽量薄型ルーフモジュール



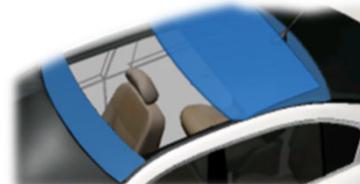
● Standard
低コスト



● Panorama
軽量大開口



● Flagship
高意匠



● Roof module
超軽量薄型



拡大するパノラマサンルーフ

セダンやハッチバック車への採用増



ACCORD



高まる開放感と快適性のニーズ

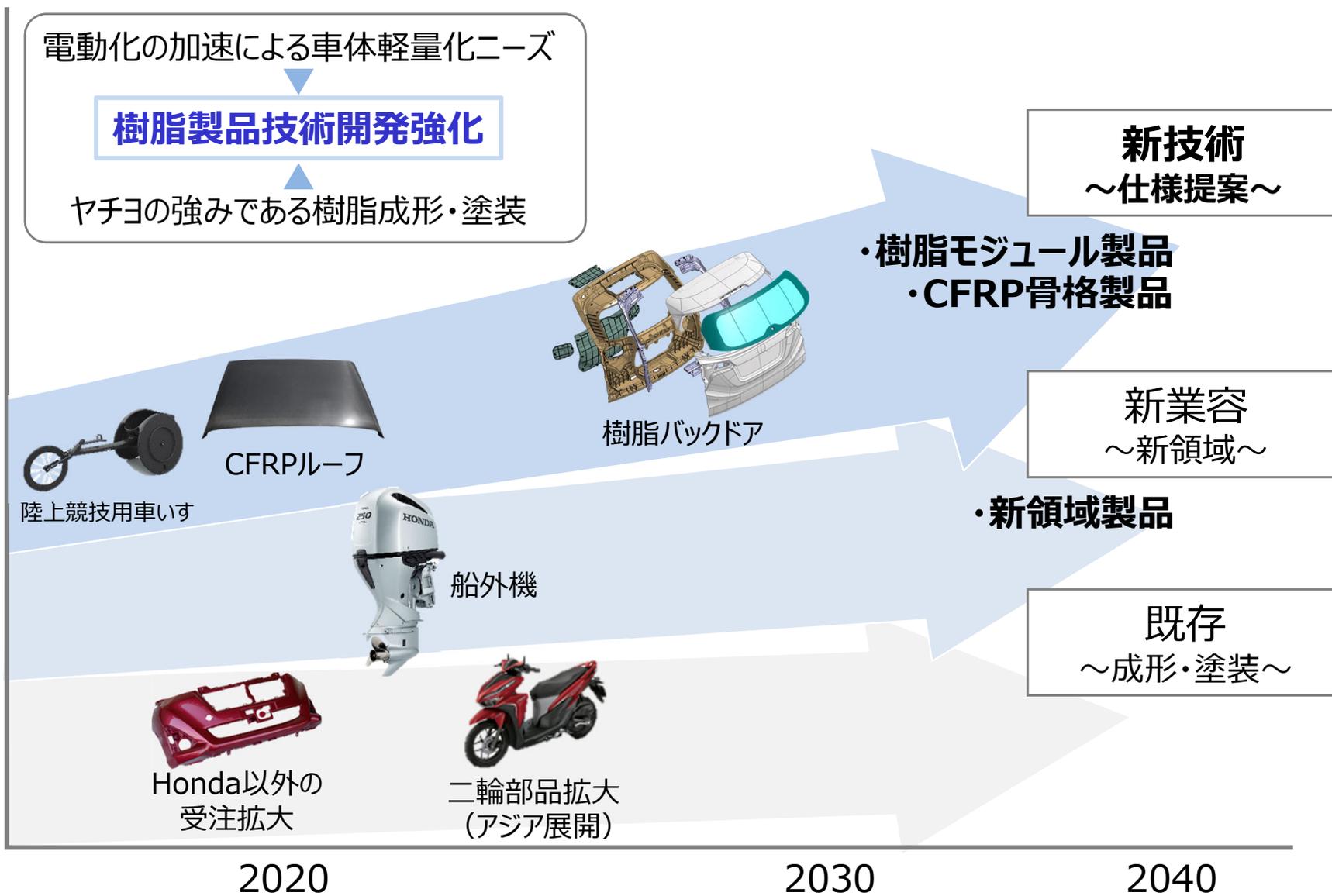
移動空間として開放感や快適性が求められる傾向へ



昨年8月に発売された
Honda eにヤチヨ製のサンシェードが採用

更なる開放感と快適性を求め ルーフモジュールの開発を推進

樹脂事業の拡大



樹脂製燃料タンク、サンルーフに続く第3の事業として樹脂製品を強化

船外機のエンジンアンダーカバーを生産（柏原工場）



エンジン
アンダーカバー



新たなモビリティへ樹脂事業を拡大

海水や強い紫外線などの影響がある新しい領域で樹脂事業を拡大

樹脂領域の技術をさらに磨き モビリティのキーカンパニーへ向け推進

品質体質の強化

全方位品質施策展開により盤石化を目指す

	開発領域	量産領域	体質領域
源流品質 向上	<ul style="list-style-type: none">・新機種 新機種準備プロセス 規定化・開発 製品検証規定化	<ul style="list-style-type: none">・製造品質 工程能力指数 管理の強化	<ul style="list-style-type: none">・変化点管理 変更管理手法の強化・取引先管理 QAV強化・品質知識底上げ 基礎教育強化
歯止め	<ul style="list-style-type: none">・開発評価プロセス強化	<ul style="list-style-type: none">・3現検証による 定着確認	<ul style="list-style-type: none">・マネージメント層教育による 品質管理の徹底

3領域、9施策を全社で推進展開中

品質・物流における取り組みで優秀賞を受賞

米州 3 拠点がホンダの2020年度QDアワードを受賞



**Yachiyo Mexico
Manufacturing
S.A. de C.V.**



量産パーツ部門・サービスパーツ部門



AY Manufacturing, Ltd.



量産パーツ部門

2019年度、2020年度と2年連続受賞



**Yachiyo Do Brasil Industria
E Comercio De Pecas Ltda.**



サービスパーツ部門

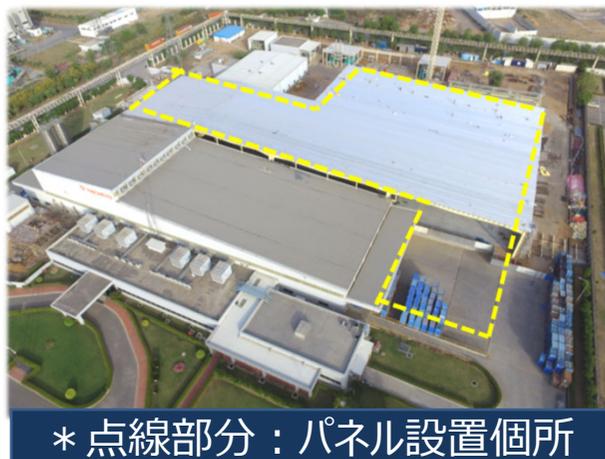


環境負荷軽減に向けた取り組み

インド生産拠点に**太陽光パネル設置**



Yachiyo India Manufacturing Private Ltd.



* 点線部分：パネル設置箇所



2021年11月稼働
年間発電量：831Mwh
CO2削減効果：620t/年
※今年度電気使用量の約25%相当

トピックス

パラアスリート 土田和歌子選手



オリンピック開会式に
聖火ランナーとして登場

大会コンセプト「多様性と調和」を
象徴する一人として聖火をつなぐ

写真提供：共同通信社

TOKYO2020で2種目出場

パラトライアスロン 9位



写真提供：共同通信社

- 1位 ケンドール・グレッチ
- 2位 ローレン・パーカー
- 3位 エバマリア
・モラルベドレロ

9位 土田和歌子

車いすマラソン 4位入賞



写真提供：共同通信社

- 1位 マディソン・デロザリオ
- 2位 マヌエラ・シェア※
- 3位 ニキタ・デンプア
- 4位 土田和歌子※

7位 喜納翼※

15位 アマンダ・マグローリー※

※当社製レーサー使用選手

引き続き 土田和歌子選手の活躍にご注目ください

陸上競技部

東日本実業団駅伝結果 16位



大会結果

優勝	富士通	3:40:04
2位	Honda	3:40:12
3位	日立物流	3:40:17
⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮
16位	八千代工業	3:49:18



引き続き 陸上競技部の活躍にご注目ください

